

発行：『福玉便り』編集委員会 NPO 法人埼玉広域避難者支援センター・(一社) 埼玉県労働者福祉協議会
 協力：生活協同組合コープみらい埼玉県本部
 連絡先：NPO 法人埼玉広域避難者支援センター 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-2 1ときわ会館 1F TEL0120-60-7722

福玉上映会&トーク

『ラジオ下神白』

—あのと き あのまちの音楽から いまここへ—

日時：11月17日(日) 14:00～(開場 13:30) 入場料：無料

- 14:00～14:10 イン트로
- 14:10～15:20 映画『ラジオ下神白』上映
- 15:20～15:30 休憩
- 15:30～16:30 アサダワタルさん(企画・出演)によるアフタートーク+質疑応答

会場：埼玉県男女共同参画推進センター

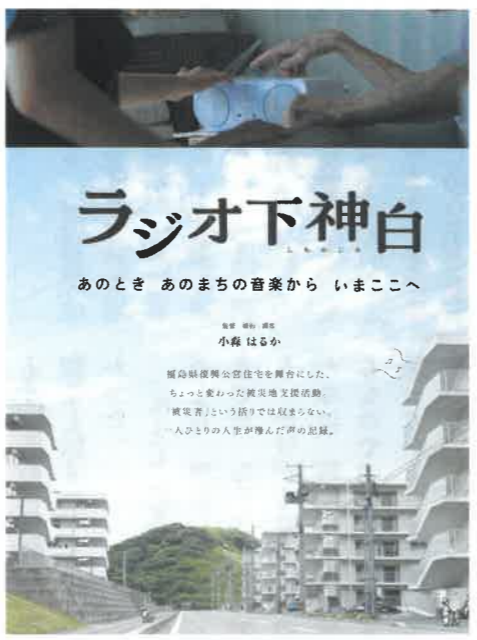
(With You さいたま) 視聴覚室(さいたま市中央区新都心2-2)
 JR 京浜東北線・高崎線・宇都宮線「さいたま新都心駅」から徒歩5分
 JR 埼京線(各駅停車)「北与野駅」から徒歩6分

主催：NPO 法人埼玉広域避難者支援センター 問合せ：0120-60-7722 (フリーダイヤル・福玉相談センター)

ラジオ、歌声喫茶、宅録、ミュージックビデオ……次々と変化する「伴走」のかたち

いわき市にある福島県復興公営住宅・下神白団地には、2011年の東京電力福島第一原子力発電所事故によって、浪江・双葉・大熊・富岡町から避難してきた方々が暮らしている。2016年から、まちの思い出と、当時の馴染み深い曲について話を伺い、それをラジオ番組風のCDとして届けてきたプロジェクト「ラジオ下神白」。2019年には、住民さんの思い出の曲を演奏する「伴奏型支援バンド」を結成。バンドの生演奏による歌声喫茶やミュージックビデオの制作など、音楽を通じた、ちょっと変わった被災地支援活動をカメラ

が追いかけた。監督は、震災後の東北の風景と人の営みを記録し続けている映像作家の小森はるか(『息の跡』『二重のまち/交代地のうたを編む』)。本作は、文化活動家のアサダワタルを中心にした活動に、2018年から小森が記録として参加することによって生まれた。カラオケとは違い、歌い手の歌う速度にあわせて演奏する「伴奏型支援バンド」。支援とは何か?伴走(奏)するとはどういうことか?「支援する/される」と言い切ることでできない、豊かなかわりあいが丹念に写しとられている。(公式ホームページより)



福玉相談センター：電話 0120-60-7722 (フリーダイヤル)
 メール：fukushima_soudan@yahoo.co.jp
相談日：火曜日・水曜日・木曜日 (9:30～16:30)
 福玉相談センターの開所日は、2024年4月から当面の間、火曜日(17:00-21:00)、水曜日・木曜日(9:30～16:30)となりました。なお、メールでの相談は随時行っております。こちらから折り返しご連絡しますので、差し支えなければ、連絡先をメールの文面に記入していただくようお願いいたします。ご迷惑をおかけします。ご理解のほどお願いいたします。

めぐり教育研究所
 代表 安齋 作子
 〒343 埼玉県越谷市東越谷6-10-7
 TEL 090-4452-2024

各地の交流会など

新型コロナウイルスの感染拡大により、交流会の流動的な状況が続いておりました。昨年5月には感染法上の分類が「5類」に引き下げとなりましたが、各交流会の感染対策については連絡先にお問い合わせください。なお、各交流会に参加される方は、引き続き体温測定の上でご参加いただき、参加中は消毒や換気にご協力ください。

①	加須市	双葉町民によるボランティアカフェ	090-5356-8778 (鶴沼さん)
③	加須市	双葉町手芸教室	080-5532-7380 (薄井さん)
⑤	加須市	すくすくのおそびひろば	090-2411-8598 (戸恒さん)
⑥	加須市	オバトン	090-6526-8560 (藤井さん)
⑧	上尾市	東日本大震災に咲く会ひまわり	080-3091-6215 (橘さん)
⑩	熊谷市	くまがや結の会	090-7661-9236 (林崎さん)
⑬	越谷市	あゆみの会	090-9425-2001 (石上さん)
⑮	川口市	ひまわりの会	080-5431-0123 (島田さん)
⑲	さいたま市	さいがい・つながりカフェ	080-5532-7380 tunagari.saitama@gmail.com
⑳	新座市	新座つながりカフェ	090-2402-9155 (谷森さん)
㉓	ふじみ野市	おあがんなんしょ交流会	090-5345-8408 (松館さん)
㉔	川越市	ここカフェ@川越	070-5080-4494 (鈴木さん)
㉚	さいたま市	玉兎の会	090-6128-1948 (小林さん) https://gyokutonokai.wixsite.com/2018

⑲さいがい・つながりカフェ
 11/14(木)、11/28(木)、12/12(木)
 11:00～15:00
 WithYou さいたま和室
 080-5532-7380
 tunagari.saitama@gmail.com

㉔ここカフェ@川越
 皆様の都合をお聞きして交流会を開催します。場所は JUN ホール、10:00～15:00
 pororon311@gmail.com、070-5080-4494 (鈴木さん)

③双葉町手芸教室
 11/20(水)、12/18(水)
 10:00～12:00
 双葉町社会福祉協議会加須事務所
 080-5532-7380 (薄井さん)

⑥オバトン
 11/12(火)、11/28(木)、
 12/10(火)、12/26(木)
 10:00～15:00
 キャッスルきさい2階調理室
 (ぬり絵教室は2階研修室で11:00～13:00。ハーモニカ演奏・合唱は木曜のみ1階多目的ホール(12月から音楽室)で10:00～12:00)
 090-6526-8560 (藤井さん)

⑬あゆみの会
 11/22(金)～23(土) 日本大震災を忘れない!! 浜通りツアー十日市交流会
 090-9425-2001 (石上さん)
 http://k-ayuminokai.info/

㉚玉兎の会
 予約は要りません! お気軽にご参加ください。048-854-8703 (小林さん)
 https://gyokutonokai.wixsite.com/2018

日帰りバスツアー in 那須のお知らせ



東日本大震災から、13年。それぞれが違う体験・経験をして過ごしています。被災地、猪苗代町で、当時行われた国際文化交流舞踊団「曼珠沙華」の舞踊! 私は、3ヶ月の子供を連れ、埼玉から行きました。すーっと、涙が出た。「ほんの一瞬でもいい、今、苦しんでいる心を忘れさせてあげたい・・・」と魂の舞台。10年過ぎた今、またみんなで見たい! 前座には、いわき市で体操教室を開催している大祖母(81歳)が、皆に元気を! 与えます。

日時：2024年12月15日
 代金：チケット代込み、1名様10,000円
 行程：9:00 草加市獨協大学前駅(東口) 出発
 12:00 那須町文化センター到着
 12:30～14:30 国際文化交流団 曼珠沙華観賞
 15:00 那須アウトレットお買い物
 18:30 草加市獨協大学前駅(東口) 到着
 問い合わせ先：大浦陽子 (090-7666-5817)

2023年4月から2024年3月まで、よりそいホットライン（震災後に立ち上がった電話相談事業）の若年層調査に関わり、東日本大震災・原発事故当時、子どもだった人たち20人から、じっくりお話を聞く機会をいただきました。その中で、ご本人が許可をくださった方の言葉を、いくつかご紹介したいと思います。

子どもたちの声

「友人と話をしていても虚しくて、ぼーっとその思いが出てくるんです。何気ない友情が羨ましい、というコンプレックスがあったから、特別な人間になりたい、と思っていました。学校にいけなくなった理由は無力感です。いじめられていたわけではなかったんです。普通に話せて楽しいんだけど、無力感納得するまで考えなかったから、ずっと考えていました。でも当時はこだわりがあって、考えられる範囲は限定されてしまっていて、そんなふうにずっと過ごしていたから、第一希望の高校も落ちてしまいました」

2023年4月から2024年3月まで、よりそいホットライン（震災後に立ち上がった電話相談事業）の若年層調査に関わり、東日本大震災・原発事故当時、子どもだった人たち20人から、じっくりお話を聞く機会をいただきました。その中で、ご本人が許可をくださった方の言葉を、いくつかご紹介したいと思います。

「ふとしたときに、同級生が地元の幼馴染と話すのを見る。『ああ、そういう友人をなくしちゃったんだなあ』と思う。気が吸い取られちゃった感じでした。当時、母が『友人（避難元の友人）とメールしなよ』と言ってくれたけど、いや、それは、なんか違うという感じが、さうじゃない、特別なことをするのではなくて、日常生活と一緒にいたかったんだ・・・というか。そういうの（同級生が地元の幼馴染と話すの）を見るのがつらかった」

「世の中に一般に、（原発事故が）忘れられている時ほど一番つらいです。私たち家族は一生、つらい課題なのかなと思います」

「震災経験が強すぎて、もともと興味のあるものがなくて、好きなものより、オンラインワンに憧れていました。震災の語り部はオンラインワンだと思っていただけで、疲れた瞬間、自己犠牲だと気がつくし、誰かを愛えた感触がないんです。人は変わらないうし、変わってくれない他人が悪いという他責思考にハマってしまって、負のスパイラルに陥るんです」

原発事故で出た放射性廃棄物をこれからどう考えたらいいのか

▼ALPS処理水の海洋放出
現在、ALPS処理水の海洋放出の第9回目が行われています。ご存知と思いますが、「処理水」と言われているものの、残念ながら、原発事故による放射性物質の汚染がすべて取り除けた水ではありません。「処理水ポータルサイト」にも書かれているように、「海水希釈後のトリチウム濃度が1500ベクレル（リットル未満となるよう、100倍以上の海水で十分に希釈する。なお、年間トリチウム放出量は22兆ベクレルを下回る水準とする）」という、「基準を下回った水」です。トリチウム以外の放射性核種も、希釈されるとはいえ、含まれていることも事実です。

この裁判は、福島県内外の住民や漁業者ら350人以上が国と東京電力に対し、福島県漁連と結んだ「関係者の理解なしにいかなる処分も行わない」という約束を反故にし、住民が平穏に生活する権利を侵害しているなどとして、国の原子力規制委員会による放出計画の認可取り消しと放出の差し止めを求めています。



この裁判は、福島県内外の住民や漁業者ら350人以上が国と東京電力に対し、福島県漁連と結んだ「関係者の理解なしにいかなる処分も行わない」という約束を反故にし、住民が平穏に生活する権利を侵害しているなどとして、国の原子力規制委員会による放出計画の認可取り消しと放出の差し止めを求めています。

今年3月、「ALPS処理汚染水差止裁判」が提起され、その第3

却下されるべきだと訴えています。この日の裁判では、原告の丹治杉江さん（いわき市）と長岡裕子さん（いわき市）が陳述しました。丹治さんは、「事故以来13年、低線量長期被ばくの不安を抱え、生活現場でさまざまな工夫・努力を行い放射線物質と折り合いをつけながら暮らす私たちに、今度は処理汚染水の海洋投棄という加害の故意による『二重の加害』、追加の被ばく行為を押し付けてきた。許されるはずがない」と訴えました。また、長岡裕子さんは、いわき市で生まれ育ち、現在はいわき市の菓子職人として暮らしている思いを語りました。



ALPS処理水の問題は、さまざまな意見があり、だからこそ「本音が言えない」という大きな問題がまず、あります。裁判で長岡さんも語っておられましたが、原発事故には、この「語りにくさ」の問題がいつも付きまといまいます。皆さんはどんなふうに考えますか。私は個人的には、次世代にどうしたら事故の被害・負担を減らせるか、ということを中心に、考えたと思っています。そして、原発事故はいまだ解決していないうえに、さらなる問題も生み続けていることを、改めて痛感しています。